



輝き



～「Open Share そしてTeamで」～

令和4年10月31日 三木市立三木特別支援学校

行事と日常生活と将来と

～ 「つくる」「つなげる」「つづける」の中で～

「いってきます。」

「いってらっしゃい」(元気で！安全に！)

「ただいま」

「おかえり」(元気かな？楽しかったかな？)

毎日のように、このような声が聞こえます。

何をするにも気持ちの良い季節を迎え、近くの公園での活動や買い物学習、採集活動等、校外での活動が増えています。

「ふれあいフェスティバル2022」(10月1日実施)は保護者の皆様のご理解ご協力のもと、みんなが「げんきいっぱい えがおいっぱい」終えることができました。とりわけ中学部のお店「あとりえ MIKITOKU」の商品はあっという間に売り切れる盛況ぶり、製作した子どもたちの大きな励みとなりました。

2学期は「行事で伸びる学期」ともいわれます。小中学部共通の行事としてのフェスティバル、オープンスクール(性教育研修会)

学習発表会 避難訓練。小学部は、地域校交流(緑小、緑東小、志染小)、三市特交流、青山老人クラブとの花植え交流。中学部は修学旅行、のじぎく特別支援学校見学、トライやるウィーク、職場体験。そして各々の居住地校交流。毎日のように誰かが校外での学習に取り組んでいます。初めての場所や活動内容に困難を感じる子どもたちを支えるのが日常の生活であり学習です。国語や算数での学習はもちろん、先生や友だちとの挨拶、ご家庭と協力して身に着けた生活習慣や食習慣など、全てがつながっているのを感じます。

行事を計画するにあたり、常に大切にしているのが3つの「つ」です。

「つくる」……今の子どもたちにより合ったものを一緒につくっていけるか。

「つなげる」……子どもたちのこれまでとこれからにつながっていくか。

「つづける」……行事で終わりではなく、そのあとも続けていけるか。続ける価値があるか。

これらの行事の共通点として、人との関わり、つながりを広げます。関わり方が経験を通してわかります。思いや考えを伝える機会となります。コロナ禍で学年単位の交流ができなかった小学部の子どもたちがクラス単位で4回交流する中で自己紹介や進行に慣れていく姿を目の当たりにしました。「今」を大切にしつつ、過去と未来像をもご家庭とも共有し、すこしずつすこしずつ力をのぼし、自立や社会参加に「はなひらく」(※)よう取り組んで参ります。

(校長 佐野 順子)

はなひらく！
のばら めぐみ

はなびらと
いはなびらと
はなびらの あいだに
のはらの わらいごえを
すこしずつ
すこしずつ
すこしずつ ためて
ちいさな ばらのつぼみが
ほんのりと
ほんのりと
ほんのりの めをさまし

はなひらく
(※)



工藤直子
詩集「のはらうた」より